

日税メールステーション 特別号

海外基本情報

第15回 ミャンマー編(1)

メールマガジンをお読みの皆様こんにちは、株式会社コアブリッジの柳です。
今号からミャンマー編をお届けします。

■ミャンマー概要

ミャンマー連邦共和国(Republic of the Union of Myanmar)は、面積が日本の1.8倍、人口5,142万人、ASEAN10カ国で最西端にあり、インドに唯一隣接する南北に伸びた国です。日本との時差は2時間30分(日本のほうが進んでいる)、季節は3月中旬～5月中旬の暑気、5月下旬～10月中旬の雨期、10月下旬～3月上旬の乾期の3つに分かれます。

1989年に当時の軍事政権が国名をビルマ(Burma。実際の発音は“バーマ”に近い)からミャンマー(Myanmar)に変更し、日本の外務省もミャンマーの呼称を用いています。

首都はネーपीドーです。「ヤンゴンでは？」と思う方も多いでしょうが、2006年に、最大都市ヤンゴン(ラングーン)から北300kmの場所に、首都機能が移転されました。

国民の9割が仏教徒で、タイと同じ上座部仏教を信仰しています。

ビルマ族が7割を占めますが、130を超える少数民族が居住しており、この国の政治の難しさや紛争の要因になっています。

※数字等は外務省のWebサイトから引用



ヤンゴンの街の様子。

右の写真に写っている金の仏塔は、街のど真ん中に建つ“スーレーパヤー”。
巨大な仏塔“シュエダゴンパヤー”とともにヤンゴンのシンボルです。

歴史の大きな流れとしては、

ビルマ各王朝→イギリス領→独立→社会主義→軍事独裁政治→民主化
のような変遷をたどり、現在に至っています(歴史については次回記します)。

通貨は Kyat(チャット。MMK と表記)です。執筆時点の為替レートは、1MMK=0.1JPY で、一桁切り下げれば日本円換算になります。

現地では基本的に Kyat 支払いですが、空港やホテルなどでは米ドル支払いのみという所もあります。

物価は、感覚的に、お隣タイの半分くらい、日本の五分の一くらいです。ただし、ホテルは慢性的に不足していて、値段が高く、設備等を考えるとかなり割高です。

現地の言語はミャンマー語ですが、外国人が出入りするような所は英語が通じます。他の ASEAN 国(シンガポール、マレーシアを除く)と比べて、英語力はかなり高い印象を受けました。発音も比較的聞き取りやすく、言葉で困ることはあまりありませんでした。

■ミャンマーの入出国

ミャンマーに入国するにはビザが必要です。インターネットで申請する eVISA が利用できるようになったので、事前に日本で申請しておきます。料金は 50USD で、クレジットカードで支払います。申請が通ると、数日後に Approval Letter がメールで届くので、それを印刷して持参します。

イミグレーションではその印刷したものを入国審査員に見せれば OK です(空港での Arrival VISA の受け取りは不要。「eVISA 取得済みの人はそのままイミグレーションへ進んでください」という看板が出ています)。

なお、帰りの便の予約票の提示は不要でした。

出国時の出国税や空港利用税は、以前は 10USD 必要だったようですが、現在は不要です。



ヤンゴン国際空港。
簡素な作りでこじんまりしていますが、清潔です。



■最初にする3つのこと:両替、SIM、タクシー

まず両替ですね。ヤンゴン空港のバゲージクレームの横に両替所が4カ所くらいあります。レートが異なるので、表示されている数字を比べて両替します。空港での Kyat への両替は、米ドル、ユーロ、シンガポールドルのみが可能です。しかも高額紙幣の新札はレートが良いため、100USD や 50USD の新札を調達して持参していくのがよいです。

携帯電話の SIM カードも両替所の横の販売ブースで購入しました。通信量上限 1GB、最長 30 日間の使用で 11,500Kyat(約 1200 円)でした。

到着口を出ると、ご多分に漏れずタクシーの客引きがすごいです。他所の国よりも“あつかましさ”が少ないように感じました。ミャンマー人の人柄なのか、まだ外国人にスレきっていないからなのかは分かりませんが、振り切るのが楽なのは助かりました。

タクシーはメーター制ではなく交渉制です。空港出口付近に定額タクシーのカウンターがあるので、面倒あるいは心配な方はそれを使うとよいでしょう。なお、相場(7,000Kyat 前後。700 円くらい)よりも 1,000Kyat(100 円)程度高いようです。

この時は、空港から少しだけ歩いて通りに出て、空港で乗客を降ろしたドライバーと交渉しました。他国でも同じですが、こうすると割安です。ふっかけてくるドライバーは袖にして、別のドライバーと交渉、それを数回繰り返し、最終的にダウンタウンのホテルまで 6,500Kyat(約 650 円)で手を打ちました。

ヤンゴンでも渋滞は日常的で、曜日や時間帯によって度合いは異なりますが、この時はホテルまで 50 分くらいかかりました。



バゲージクレーム横の両替所。微妙にレートが異なります。
人が並んでいる青いブースでは携帯電話の SIM カードを販売していました。

ミャンマーには人懐こい人が多い印象で、特に、何度も利用したタクシーでは、毎回色々とお話をしました。「両替してあげるよ」とか「明日の移動のドライバーやってあげるよ」とか商売気を見せはするのですが(どちらもお断りしました)、先述のように、あつかましさは少なく、どこか人の良さを感じます。

滞在中話しをした複数のミャンマー人が

「ちょっと前までの政府(軍事独裁政権)の時には、物価は高い、取り締まりは厳しい、国民の救済など全く考えていない、とひどいものだったが、今の政権に移ってからはかなり生活が

しやすくなった」

と異口同音に力説していたのは興味深いことでした。

また、「日本企業の進出が盛んで、日本人が非常に増えた。日本製品も多いよ」とも、好意的に語っていました。

今回はこれで終了です。次号はミャンマーの歴史をお届けします。

ではまた次回お会いしましょう。

※本文中の数値や URL 等は執筆当時のものです

執筆者

柳 恵太 (やなぎ けいた)

株式会社コアブリッジ代表取締役。

ソフトウェア開発会社、メーカー、教育ベンダーを経て、2014年に株式会社コアブリッジを設立。これまでの、システム開発の上流から下流、受託側から発注側、エンジニアからプロジェクトマネージャー、ユーザーと開発者、企画・営業・開発・提供、日本と海外、社員から経営者といった、組織における幅広い役割を活かし、主に IT 企業向けの人材育成やコンサルティング等のサービスを提供している。

情報提供元:



株式会社コアブリッジ

<http://www.corebridge.co.jp/>

※本コラムは、<http://www.corebridge.co.jp/column.html> でもご覧になれます。